

関西国際空港のさらなる飛躍を願って



大阪府空港対策室長 文村 俊三

- 8月2日に待望の第2滑走路がオープンし、4か月が経過した。わが国で唯一、複数の長距離滑走路を有する完全24時間空港となった関西国際空港は、アジアゲートウェイ構想でも、その役割が明確に位置づけられ、我が国を代表する国際拠点空港として、さらなる発展が期待されている。
- 関空発展のキーワードは「アジアのゲートウェイ」と「国際物流のハブ空港」である。関空のアジア路線は昨年以來、中国路線を中心に急速な拡大を続けており、特に貨物分野はその傾向が顕著である。
- ダイヤを見ると、今冬の国際貨物便は、平成6年の開港以来、初めて週200便を超え、過去最高の週211便となる予定である。これは開港時の8倍を超えており、1年前と比べても30%増と大幅な伸びである。

このように大幅な増便が実現したことは、国際物流の拠点として関空を活用していきこうという、大きな流れが出てきたものと感じられ、大変嬉しく思う。
- この背景には、シャープの新工場の堺市への立地決定など、大阪湾ベイエリア活性化の影響が大きい。これだけの増便基調が続いているのは、工場誘致・製品出荷などの面から、関空を含めた関西圏のポテンシャルが総合的に評価されたものと考えている。
- 今後、貨物便の集積、物流機能の強化が企業立地につながり、さらに航空貨物需要の高まりが、航空会社による関空の貨物ハブ化を促進する、といった好循環が創り出されることを強く願う。
- 一方で、課題もある。その1つが、アジアの諸空港との熾烈な空港間競争に負けない競争力を備えることだ。空港利用コストの低廉化や物流拠点としての高機能な上屋、保税倉庫群など充実した国際貨物施設の整備推進など、貨物航空会社等が、数ある空港の中から関空を選ぶような、特色とコストパフォーマンスが必要だ。
- そのためには、関空会社の持つ1兆1千億円強の有利子負債を圧縮するなど、国の思い切った支援措置が是非とも必要である。
- 大阪府においても、就航奨励制度による便の誘致や就航促進などに力を注いでおり、今後は物流部門への支援も視野に入れていきたい。地元の自治体、経済界と一丸となり、関空の機能を高めていくことで、続く関空二期事業の着実な推進、アジアの物流拠点形成を実現していきたい。
- アジアとともに成長する大阪・関西を支える貴重なインフラである関西国際空港のさらなる発展を大いに期待する。